

森林・林業教育シンポジウム「森林・林業の専門教育を語る」(2月20日)

開催報告

近年、林業大学校の設立が相次ぐなど、森林・林業の人材育成へ関心が高まっていることから、多摩森林科学園では、初の試みとして、森林・林業の専門教育の関係者が一同に集まり、専門教育と研究のあり方を検討する森林・林業教育シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、森林総合研究所の産学官民連携活動の一環として、大学、大学校、高等学校の専門教育の関係者が一同に会し、研究者と共に専門教育と研究のあり方を検討することを目的に開催したものです。当日は、発表6件とコメント7件総合討論を行いました。プログラムは、表の通りです。

2018年2月20日(火)には、多様な立場の関係者46名が集まりました。

(発表者・参加者の所属の内訳)

- ・教育機関 13名：大学6名、大学校1名、高等学校1名、学生5名
- ・行政 12名：林野庁8名、県3名、市区町村1名
- ・民間・業界団体8名
- ・研究機関 13名：(主催者6名を含む)



(写真1) 総括コメント 沢田治雄理事長

発表では、かつて林学科や林業科だった専門学科が多様化し、専門的人材の養成の機能が変わってきている様子や、学校ごとに状況が異なるので一概に一般化はできないものの、各校種の実践現場の状況が紹介されました。海外の事例として、ドイツとアメリカの専門的人材の養成も紹介されました。総合討論では、多摩森林科学園大石康彦氏をコーディネーターに、研究、大学、行政の立場からのコメントと、活発な意見交換が行われました。

森林・林業の専門教育の課題として、専門教育のあり方、専門的人材に求められる知能や技能、次世代を担う若者の確保(入試倍率の確保)、教育内容・テキスト、指導者の養成など、多様な内容が挙げられました。その中で、森林・林業の専門教育に関わる関係者と行政担当者、研究者が一同に会して情報交換を行うことの重要性が指摘され、本シンポジウムの意義が評価されました。参加者アンケートからは、高い評価を得ています。

シンポジウムの要旨集(図)は、多摩森林科学園のホームページで公開しています。



(写真2) シンポジウム 総合討論の様子

表 森林・林業教育シンポジウム プログラム

あいさつ	多摩森林科学園 吉永秀一郎
趣旨説明	多摩森林科学園 井上真理子
第1部 森林・林業の専門教育について	
専門教育の概要	多摩森林科学園 井上真理子
「高等学校における森林・林業系単独学科の教育の変化」	宇都宮大学 林 宇一
「コメント：山梨県立農林高等学校森林科学科の現状」	山梨県立農林高等学校 原弘樹
「林業大学校の特徴と学生調査の結果」	名古屋大学 小川 高広
「コメント：地方行政と人材育成、林業大学校」	岐阜県飛騨市農林部 中村 幹広
「自失する林学教育」	鳥取大学 大住 克博
「コメント：大学における森林教育の変遷—名古屋大学の事例」	名古屋大学 竹中千里
海外「林業の専門教育—ドイツの事例を踏まえて」	愛媛大学 寺下 太郎
海外「アメリカの専門教育」	森林総合研究所 平野悠一郎
第2部 総合討論	
コーディネーター	多摩森林科学園 大石 康彦
コメント	総合地球環境学研究所 田村 典江
コメント	鹿児島大学 枚田 邦宏
コメント	森林技術総合研修所 赤堀 聡之
コメント	福島県 木村 憲一郎
総括コメント	森林研究・整備機構 沢田 治雄



(写真3) 開会あいさつ 吉永秀一郎園長



図 森林・林業教育シンポジウム発表要旨集